この伝令を受けた山川大蔵の軍は、さっそく、日光街道を戻り、飯寺の西の大川のところまで引き返してきましたが、そのとき、すでに鶴ヶ城は、敵の軍勢に包囲され、味方の兵をひとりも損じることなく、お城に入ることは、不可能な状態でした。

山川大蔵は、馬上より鶴ヶ城を眺めながら、どうしたものかと考えておりました。そのとき風が吹き、近くにいた馬のたてがみが、吹きあげられ、馬の顔が獅子に見えました。

山川大蔵は、ハタと膝をたたきました。保科正之公が最上より会津に移封されたとき、勇壮な獅子舞を先頭にして寛永二十年（一六四三）に会津に入ってきたのが、会津の獅子舞のはじまりであるという言い伝えを思い出し、この近くの小松というところにも獅子舞があったはずだと考えました。そして、

「この近くの小松に行って、百姓たちを集めて、獅子舞をさせよう。」

「獅子舞ですか？　いかがいたしますのですか。」

「わしに考えがある。みな、ついてまいれ。」